

# 経鼻弱毒生インフルエンザ予防接種を希望する方へ

インフルエンザ予防接種は、主に個人の予防を目的に行われるものです。自ら（若しくは保護者）の意思と責任で接種を希望する場合に接種して下さい。

## ◇ インフルエンザとは

インフルエンザウイルスの感染を受けてから1～3日間ほどの潜伏期間の後に、発熱、頭痛、全身倦怠感などが突然あらわれ、咳、鼻汁などの上気道炎症状が続き「かぜ」に比べて全身症状が強いのが特徴です。

## ◇ 経鼻弱毒生インフルエンザワクチンについて

- ・ 鼻腔内に各1回噴霧するタイプのワクチンです。
- ・ 2歳から18歳の方が対象です。
- ・ インフルエンザウイルスを弱毒化した生ワクチンです。

## ◇ 予防接種の効果

感染を完全に阻止する効果はありません。インフルエンザの発病を予防することや、発病後の重症化や死亡を予防することに関しては一定の効果があるとされています。

## ◇ 副反応

鼻閉、鼻漏、咳嗽、口腔咽頭痛、頭痛などがみられることがあります。また、重い副反応としてショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管性浮腫など）や、海外ではベル麻痺を含む脳神経障害、脳炎、けいれん（熱けいれんを含む）、ギラン・バレー症候群（手足に力がはまらない、しびれ、食べものが飲み込みにくい、呼吸が苦しいなど）、血管炎（発熱、頭痛、倦怠感、紫斑、紅斑など）などが報告されています。

## ◇ 予防接種を受けることが適当ではない人

- 接種当日、明らかに発熱のある人（一般的に37.5℃以上）。
  - 重篤な急性疾患や気管支喘息、アレルギー性鼻炎にかかっている人。
  - 予防接種の接種液の成分（鶏卵、ゼラチン含有製剤等）によってアナフィラキシーを起こしたことがある人。
  - 同居家族に2歳以下のお子さん、妊婦、高齢者、重度の免疫不全者がいる方
- ※ 医療機関によって対応が異なります（参考：川崎病院は接種不可）
- 予防接種で接種後2日以内に発熱が見られた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある人。
  - 明らかに免疫機能に異常がある疾患をお持ちの方、免疫機能をきたす治療を受けている人。
  - 経口または注射の副腎皮質ホルモン剤を使用している人
  - 妊娠していることが明らかな人
  - その他、医師が不適當な状態と判断した場合。

（裏面へ続く）

◇ 予防接種後の注意事項

- ① 接種直後の 30 分間は急激な健康状態の変化がないか注意しましょう。
- ② 接種後 24 時間の体調に注意しましょう。
- ③ 接種後 1～2 週間は、飛沫または接触により周囲へ感染させてしまう可能性があるため、重度の免疫不全者との密接な接触は避けてください。
- ④ 接種当日はいつも通りの生活をして構いませんが、激しい運動は避けましょう。
- ⑤ 接種局所の異常反応や体調変化がある場合は速やかに医師の診察を受けましょう。

◇ 感染症の予防について

人混みを避け、外出時はマスクを着用し、帰宅時や食事の前など こまめに石鹸と流水で十分に手を洗いましょう。

川崎町保健福祉課